

夢咲き

150名の「卒業式」！未来の自分の主人公であれ！

3月8日 第73回「卒業式」が挙行されました。中学校3年間と義務教育9年間の修了となる門出を地域関係者・PTA役員・保護者の皆様に見守られながら、卒業生150名が「平良中学校」を巣立ちました。式においては、宮古島市教育委員会教育委員「中尾忠祐」様より「告辞」を賜り、PTA会長の稲垣聖司様からの「祝辞」をはじめ、多数の方々からもお祝いのメッセージをいただきました。誠に有り難うございました。



～以下「第2学期始業式」学校長式辞より～

卒業証書を受け取った150名の卒業生の皆さん、改めまして「卒業おめでとうございます。」卒業という喜びと本校を巣立っていくという少しの寂しさを感じていることと思います。皆さんは、この三年間、本校のよき伝統を守り、さらに新たな平良中を創造すべく、何事にも一生懸命に取り組んで来ました。その足跡を振り返り、皆さんのさわやかな笑顔、真剣な眼差しを思い浮かべるたびに、数々の感動が思い出されます。

いよいよ皆さんは、これから自分の選んだ道へ、新たな第一歩を踏み出します。第一歩を踏み出す皆さんへの「はなむけの言葉」として、教育者の東井義雄さんという方の『人生の詩(うた)』という詩の一節を紹介します。

※人生の詩「自分は自分の主人公(右梓⇒)」

卒業生の皆さん、自分を創る責任者は自分です。親でもない。先生や友人でもない。自分自身です。元来、人は強くない存在だからこそ、自分で決めたことを忘れず、小さな実践を積み重ねながら、日々反省し続ける必要があると思います。だからこそ、自らが選択した4月からの進路においては、世界でただひとりの自分を創っていく責任者として、主人公として、今まで以上に、より一層の自覚と努力が必要です。

結びになりますが、卒業生の皆さん、これから先は、コロナ禍のような予測困難な事態が再び起きるかもしれません。しかし、これまでの経験を生かし、強く逞しく、尚且つ協働と思いやりの精神をもって歩いていってほしいと思います。そして、「自分は、自分の主人公である」ということを心に刻み、5つの「SHINPO」の精神で、大志を抱き、未来に向け大きく羽ばたいてくれることを切に願っています。

人生の詩「自分は自分の主人公」 東井義雄

自分は自分の主人公
世界でただひとりの
自分を創っていく責任者

自分をのりこえては
もっと大きい自分を創っていく
もっと豊かな自分を創っていく
もっと強い自分を創っていく
もっと確かな自分を創っていく
もっと深い自分を創っていく

自分を創るのは自分以外ないのだから
人生はほんとうの私にめぐりあうための旅
自分の人生を
自分でこわすようなことだけはしてくれるな
自分で汚すようなことだけはしてくれるな

自分は自分の主人公
世界でただひとりの
自分を創っていく責任者

卒業生代表4名 答辞にそれぞれの思いを

卒業式において、代表で答辞を務めたのは、武富勝也さん・松原香帆さん・上地悠生さん・島尻花音さん、それぞれが中学校三年間の思いを感謝の気持ちとともに素直に表現してくれました。時を共にし力を合わせてきた仲間へ、先輩として慕ってくれた後輩へ、一番頼りにしてきた先生方へ、かけがえない存在である家族へ、涙ながらのメッセージは式場の参加者全員が共感し、心に響く大変立派な答辞となりました。



魅力ある学校づくりに向けて

卒業式当日、何やら巨大な「卒業証書」が校内(図書館前)に立てられていたかと思えます。この巨大「卒業証書」は、卒業生がその前に「右の者」として立って記念撮影ができるようにと3年担任の根間達也先生が中心となって作成、証書の文字は達也先生の奥様が書道の腕前を振るって書いてくれたそうです。そのお気持ちが本当に有り難いです。また、卒業生の保護者の皆様から卒業記念品として「大型プリンター」を贈呈していただくことになりました。2月に先に購入させていたいただき、今回の式場の垂れ幕等の作成に活用させていただきました。感謝です！



県立高校入試「学力検査」終わる

3月4日 2日間の日程で行われた高校入試、大きな変革があった今年の高校入試では、特色選抜、一般選抜のいずれにおいても、全員に「学力検査」が課せられました。島内三高校の会場では、緊張しながらも時間ぎりぎりまで、参考書等を見つめたり、友達同士、問題を言い合ったりする等、各生徒必死でした。誰もが通る人生の第一関門、合格発表は3月18日となります。全員に吉報が届きますように！

